



記

ようやく朝晩が涼しくなり、ホッと致しますね。又お元気な皆様にお会い出来ますように。今回は実在の詩人アンドレアシェニエのオペラです。日本では未だトスカや椿姫のように知られてはいませんが、実は私もこの中で歌われる、「ある日青空を眺めて」のアリアは 1992 ローマ、カラカラ浴場跡での三大テナーが集っての歴史的なコンサートでカレーラスが歌うのを聞いた時、初めて聴いた歌なのに、何という素晴らしい声、何という美しい歌！と感動したのです。その後、これが歌われるジョルダノ作の「アンドレアシェニエ」を見て以来、最も好きなオペラとなりました。フランス革命前夜の貴族の邸宅での華やかなパーティーで、令嬢に恋という言葉でからかわれて、シェニエは恋の尊さを歌ってさとしします。優雅なガボットを踊る屋敷の外では不穏な革命の空気が漂い始めています。フランス革命の事を簡単におさらいしておかれると、飛び交う言葉や人名など思い出されるでしょう。ロベスピエールだの、ジャコバン派だジロンド党などまあ、そう気になさなくてもよろしいです。ベルサイユの薔薇でもじゃんじゃん出てますものね。例によってちよい見せのデル・モナコ主演のは歴史的。ホセクーラーのはイケメンで美しく、カレーラスのは格調高く哀愁ありいずれにしても、聴衆は万雷の拍手で、あちらでの人気の高さもわかります。

以上 青戸

